

東京 IPO 特別コラム

2018年5月25日 Vol.123

話題の大型IPO銘柄の登場は吉か凶か

全体相場が1月23日にピークを迎えて以降、2か月ほど調整を続ける中でそのはけ口がIPO市場に向けられ、2-4月のIPO銘柄に人気集中となり、宴のような賑やかさが続きました。ただ、何事にも行き過ぎは付き物。異常な高値をつけたIPO銘柄にはその後反省気運が台頭しています。日経平均は3月26日にボトムをつけ、その後ジリ高歩調を辿り、5月21日には2万3000円台乗せを果たしたものの、米国の自動車へ25%もの関税をかけるとの施策を打ち出したことから、ここに来てまた調整ムードが台頭しています。日経平均が1月高値抜けを目指す展開の中でJASDAQやマザーズといった中小型株指数は頭重い展開が見られ、これが市場の実態を示しているとの見方もできます。外国人投資家の慎重な投資スタンスを反映しての調整場面ですが、個人投資家の皆さんはこうした局面でリスクチャレンジしようとしているのかも知れません。業績発表後の中小型銘柄への評価には二極化が見られるものの、やや出遅れ感も出始めておりいつまでも下値模索を続けることはないと考えられます。

こうした局面でIPO市場には5月31日に印刷シェアリングエコノミー事業を展開するラクスル(4384・公開価格1500円)がマザーズ市場に登場する予定です。また、その後はCtoCマーケットプレイスを展開するメルカリ(4385)が6月19日にマザーズ市場に上場の予定。ラクスルの上場時発行済み株式数は2751万株で時価総額は413億円。7月決算で年商は100億円で先行投資期を経て今期は黒字化も期待される中でのIPOですが、開示情報ではまだ十分な収益性が見出せない中ですのでやや割高感が感じられます。また、公募250万株、売り出し株数845万株と比較的多いため上場時はやや頭重い展開が想定されます。また、市場で話題となっているメルカリもまだ先行投資期にあって赤字計上を余儀なくされた中でのIPOです。こうした成功投資期にある企業のIPOをどう見るか機関投資家も含めた投資家の評価が関心事となります。上場時発行済み株式数が1億3533万株で公募1815万株、売り出し2255万株とこちらも大型のファイナンスとなるため筆者としては上場時の株価は頭重い展開になる可能性を感じています。こうした大型IPOが吉となるか凶となるかはわかりませんが、市場の攪乱要因となりそうです。

こうした大型のIPOに対してその後に登場するログリー(6579・M)、ZUU(4387)、SIG(4386)、ライトアップ(6580)といったIPO銘柄の方については公開株数が少ない分、好需給が想定されます。5月のIPO銘柄は小休止状態でしたが、6月のIPO銘柄は29日のスプリックス(7030)まで10銘柄が予定されており、再び皆様の関心が高まるものと考えられます。2-4月のIPO銘柄は初値時に異常人気を集めた銘柄ほどその後の調整が大きくなったようですが、そうしたIPO市場の動向も踏まえて事業内容や需給などをご吟味頂き、ご自身の判断で取り組んで頂きましたら幸いです。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)